だいこく通信　第四十六号「夏の号」

ごあいさつ

新型コロナウィルスの感染拡大が収まりません。より感染力の強い変異株による感染爆発が懸念されています。ようやくワクチン接種が本格化しましたが、全世代へいきわたるにはまだ時間がかかりそうです。しかも、ワクチンの効き目がどの程度持続するのかは、よくわかっていないようです。この状況下において、大きな催しも予定されているやに聞きますが、さらなる感染の拡大につながりはしないか、非常に心配です。

当神社でも引き続きできる限りの感染対策をしつつ、みなさまのお参りをお待ちしております。

社報「だいこく通信」第四十六号をお届けいたします。

今回の内容は、最近の当神社の話題、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社　宮司　大島資生

大国神社の今

当神社境内には、神社の由来の記述のある石碑があります。この石碑が経年劣化のため、補修が必要になってきました。先日、専門家に依頼し、補修の見通しを検討し始めたところです。実際の作業に入りましたら、少しの間ご参拝の際にご不便をおかけすることがあるかもしれません。安全第一に作業を進めるようにいたします。どうかご了承くださいませ。

お宮あれこれ～お賽銭の話～

神社にお参りする際、社殿の前で神様にお供えするお金のことを「お賽銭（さいせん）」と言います。今回は、お賽銭の歴史についてお話ししましょう。

「賽銭」は古くは「散銭（さんせん）」と呼ばれていました。本来、神様にお供えしていたの

はお金に限らず、金や銀のこともありましたし、特に洗米が供えられたことがよくありました。古い作法では、紙に洗米を包んでお供えする「おひねり」が用いられました。時代が下っていくと、お米よりも硬貨を用いることが増えました。そして、はだかのままご神前に投げられるようになりました。これが「散米（さんまい）」あるいは「散銭」と呼ばれました。ところで、「散米」は「打撒（うちまき）」とも呼ばれます。なぜ「撒」という文字が入っているのでしょうか。「散米」はもともと神様への供え物としての米という意味合いを持っていましたが、米の霊力によって悪魔や悪霊を祓うために撒くようになりました。たとえば、《延喜式》記載の大殿祭（おおとのほがい）の祝詞の注に、出産にあたって産屋に米を撒き、米の霊力によって産屋を清めたという記述があります。「稲妻」ということばにあらわれている通り、古代日本では、雷光が稲の穂と結合して穂を実らせると信じられていました。稲が花をつける時期によく雷が発生するためではないかとされています。このように米には特別な力があると考えられており、その力にあやかろうとしたのが「散米」「打撒」の習慣でした。

次に、散銭という習慣の、時代による移り変わりについてみてみましょう。

平安前期の僧、慈覚大師円仁（写真は慈覚大師像（長楽寺蔵））の『入唐求法巡礼行記』は大師が唐に学んだ際の記録で、中国では九世紀に仏前への散銭の習慣が一般的になっていたと記されています。一方、日本では貨幣経済の発展が遅かったため、神仏に散銭を捧げることが広まったのは室町時代になってからでした。室町時代は、伊勢神宮をはじめ、各地の霊場を巡る習慣が庶民社会に定着した時代でもありました。

散銭をお供えするのは、本来、願い事が叶ったお礼のためでした。しかし、時代とともにその意味合いは変わってきました。さまざまな分野で庶民が台頭してくるにつれ、神様は昔のように絶対的な存在ではなく、人間と同じように喜怒哀楽や欲望があると捉えられるようになりました。それゆえ、ご加護やご利益（りやく）をうけるには、相応のお供えが必要だと考えられるようになったのです。これは、神様が人間にとってより身近な存在になったということでもあります。中世の武士は戦（いくさ）に臨むにあたって戦勝を祈願しました。その際、祈願が成就すれば土地や社殿を寄進するが、成就しなければ社殿

を焼き払うなどという祈願文を奉納した例もあるそうです。このように神前に散銭を供える目的も多様化し、神様といわば取引をするためという場合もありました。

散銭に代わって「賽銭」という言葉が用いられるようになったのは、安土桃山時代からです。「賽」は「神様に報いる」という意味合いを表わします。「賽銭」という言葉の古い例の一つが『日葡辞書』（一六〇三～一六〇四）で、「仏、または神の前に奉る金」と解説されています。

なお、鶴岡八幡宮（写真）の別当（神社に付属しておかれた神宮寺の僧）の日記の天文年間（一五三二～五五）の項には、社頭に散銭櫃を置いたことが記されているそうです。今の賽銭箱の始まりと考えられます。

お賽銭に込める意味合いは時代とともに移り変わってきましたが、神様に何かを祈る気持ちには変わりがありません。みなさまはお賽銭にどんな願いを込めてお参りなさいますか？

参考文献　『日本国語大辞典』（小学館）、『日本大百科全書』（小学館）、『世界大百科事典』（平凡社）、（以上　ジャパンナレッジ利用）、『神道大事典』（弘文堂）

祭礼・祈祷などのご案内

○次回甲子祭
令和三年九月十三日（月）　午前五時～正午

○開運千人講祈祷祭　毎月一日　午前六時～正午まで

○諸祈祷受付　　商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。

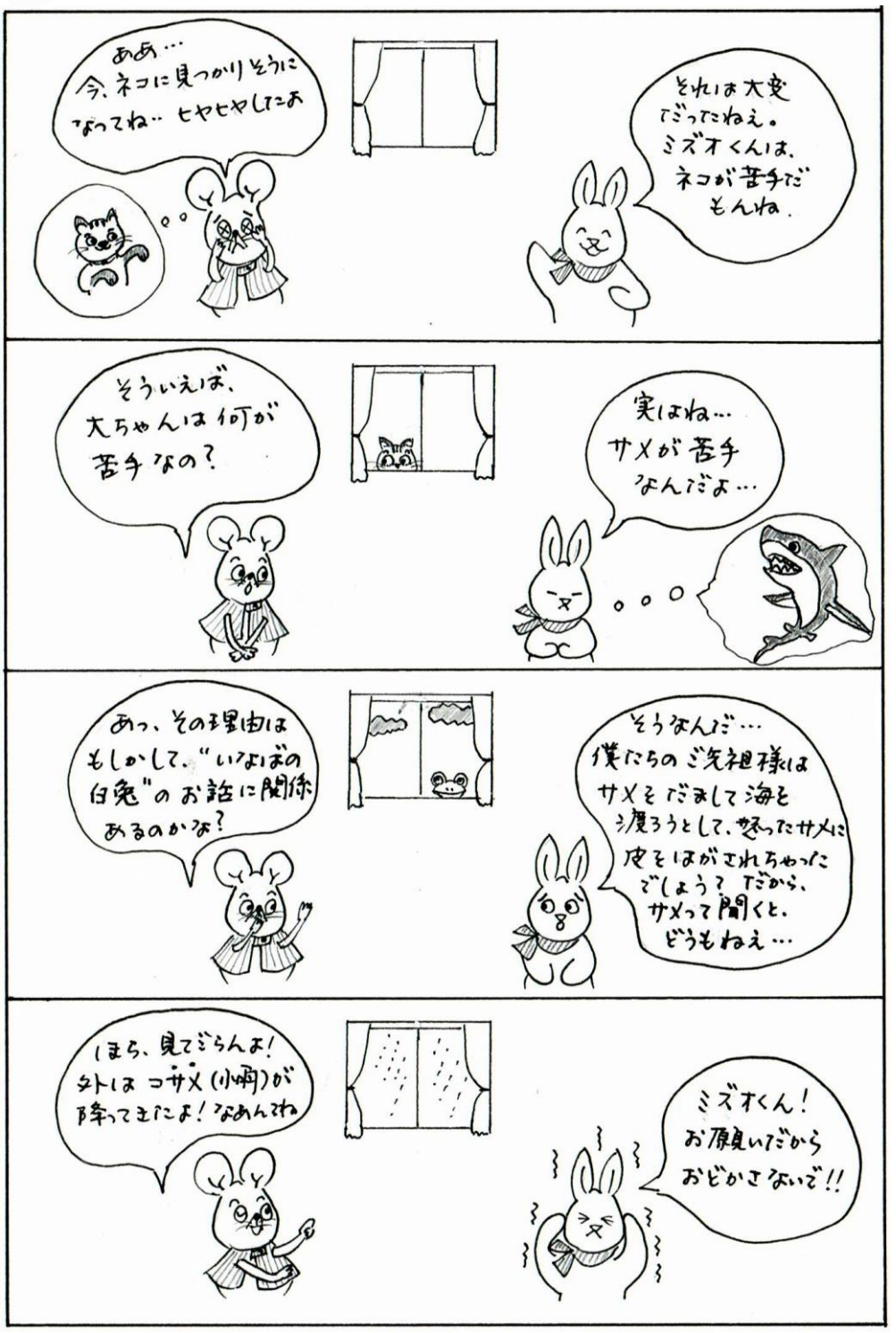
○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次頁の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。
不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話しください。のちほどこちらからご連絡いたします。

〈お問い合わせ・お申し込み〉
電話　　○三―三九一八―七九三〇
携帯　　○八〇―一九八七―八七一六
eメール　daikokujinja@gmail.com

（連載まんが）

大吉うさぎ
～苦手なもの～

くま こまち 作



次号発行予定

「だいこく通信第四十六号」、いかがでしたか。次号「秋の号」は、令和三年九月十三日の甲子祭に発行予定です。

「だいこく通信」第四十六号　令和三年七月十五日発行
編集・発行　大國神社社務所
〒一七〇―〇〇〇三　東京都豊島区駒込三―二―十一
http://www.daikokujinja.org